

第3回 真駒内駅前地区まちづくり地域協議会

会 議 記 録

1 開催概要

日 時 : 令和2年10月9日(金)
①13:30～15:00
②16:00～17:30
③18:30～20:00
※新型コロナウイルス対策のため、各グループごとに時間を分けて意見交換を行いました。

場 所 : 南区民センター 2階「区民ホール」(南区真駒内幸町2丁目2-1)

参加者 : 18名

事務局	: 札幌市まちづくり政策局都市計画部長	田坂隆
	札幌市まちづくり政策局都市計画部地域計画課調整担当課長	阿部賢
	〃 調整担当係長	飯田健
	〃 担当職員	中山健介
	〃 担当職員	水木隆之
	(運営支援 株式会社 K I T A B A)	

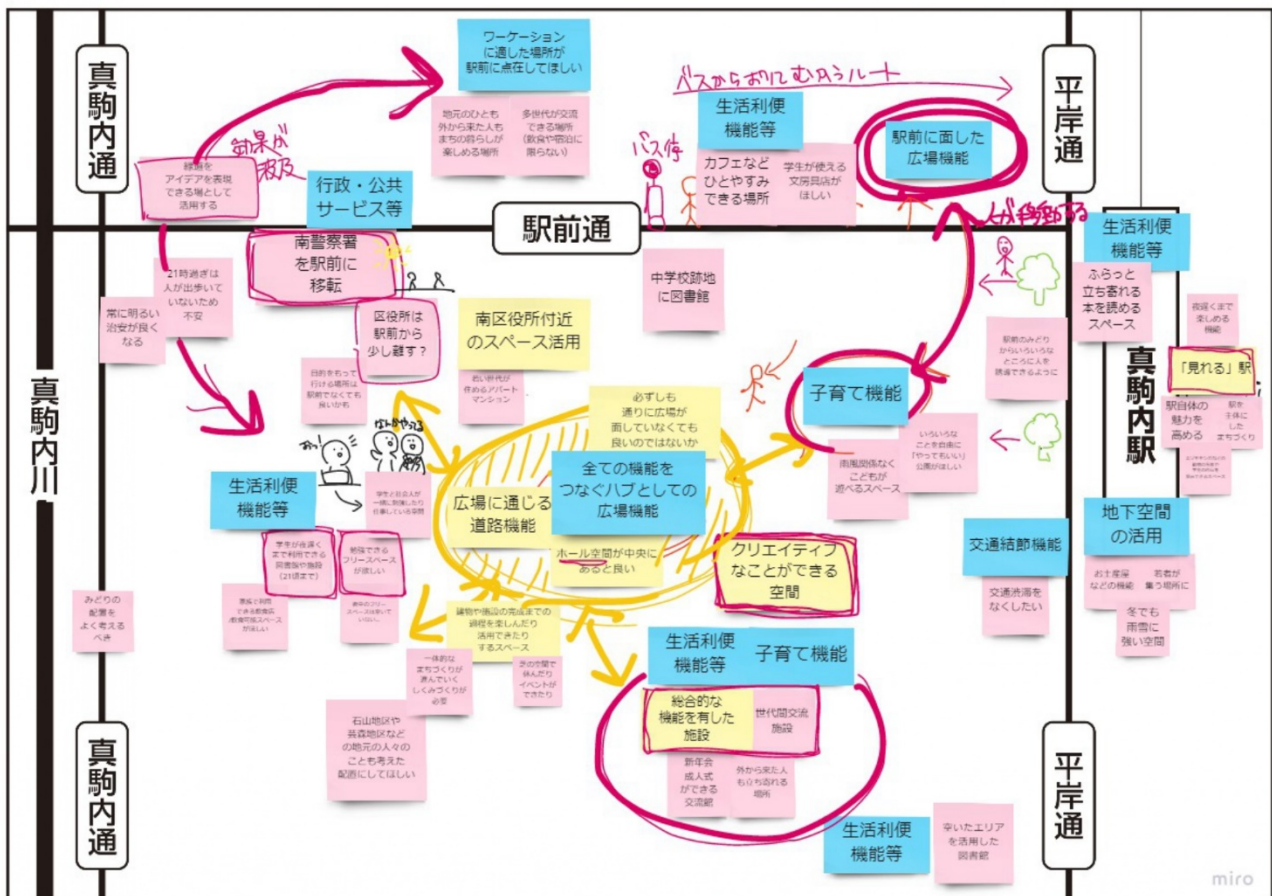
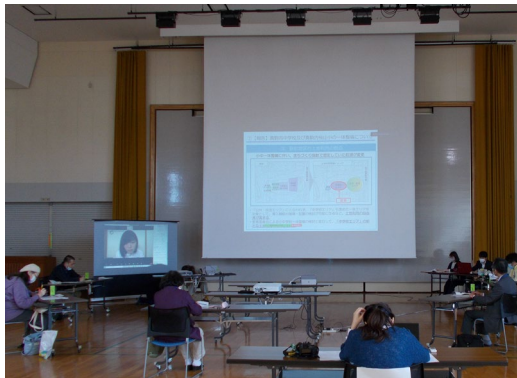
配布資料 : 資料1 事務局からのパワーポイント説明資料
資料2 真駒内駅前地区まちづくり地域協議会名簿
資料3 第2回地域協議会で出された真駒内駅前に求められる機能

2 ワークショップの結果

■グループ①の結果

プログラム：

時間	内容	
13:30	開会のあいさつ	
13:35	情報提供（札幌市）	・【報告】真駒内中学校及び真駒内桜山小学校の一体整備について ・今回の地域協議会の位置づけについて ・第2回地域協議会・検討委員会の振り返り ・再編コンセプトの整理について
13:50	意見交換	・駅前地区がどのような使われ方をするかを想像し、効果を高める機能の関係性を考える
14:50	発表	
14:55	閉会のあいさつ	・事務連絡 ・ワークショップのアンケート記入、回収
15:00	閉会	



◆駅前求められる機能の位置関係について

○すべての機能をつなぐハブとしての広場機能を、駅前に配置

- ・イベントなどに適した広場を駅前に設け、各機能へのアクセスを確保することで、広場から真駒内駅前地区へ人の誘導を促すとともに、移動の利便性を高める。
- ・広場をハブとすることで、往来が生まれ、にぎわいが感じられるようになれば、必ずしも通りに面していなくても良い。

○交通結節機能と真駒内駅の間に広場機能を配置

- ・バス乗降場から真駒内駅に向かうまでの間に、カフェなどが面した広場機能を配置することで、バスを利用する学生などが気軽に立ち寄れるようにし、駅前のにぎわいを創出する。

○広場機能と子育て機能を近く配置

- ・真駒内駅前に面した広場と、天候や季節に左右されることなく子どもたちが遊べる屋内スペースなどを有した子育て機能を近くに配置することで、にぎわいを創出するとともに、子どもたちを遊ばせつつ保護者が買い物などに行きやすくなる。

○行政・公共サービス等を駅から少し離れた場所に配置

- ・区役所などを、駅前から少し離れた位置に配置することで、人通りが生まれる。南警察署の誘致もできれば、夜間の人通りも増えるため、治安の向上にもつながる。
- ・区役所など特定の目的をもって訪れるような施設を、あえて駅前から離れた位置に配置することで、人々の周遊性を高める。
- ・区役所跡には、若い世代向けのマンションを建設するなどにより住環境を充実させ、新たなにぎわいをつくる。

○中学校跡地に、生活利便機能等の機能などを配置

- ・真駒内中学校跡地に総合的な施設を配置することで、駅前だけに人通りが集中することを避けつつ、夜間でも明るさによる治安維持などの効果を生み出す。
- ・様々なイベントが開催できるようなホールや、学生が勉強できる図書館などを有した多機能施設を配置する。これにより、地域、世代を超えた交流によるにぎわいを創出しながら、クリエイティブな活動を促進させる。

◆駅前に求められる新たな機能や考えるべき事項について

○クリエイティブな活動を促進する空間や施設

- ・地域や地域外の学生、子ども、大人が自分たちのアイデアなどを自由に表現し、実行できる公共的な空間があると良い。真駒内をクリエイティブなことができる場所というコンセプトで打ち出しても良いのではないかな。

○テレワークやワーケーションといった新たな働き方と、学生の活動を支援する空間

- ・都心より自然環境がよい地域であるため、Wi-Fiなどが整備され、パソコンを開けて会話ができるような場所があると、外から人が来るのではないかな。
- ・仕事をしている人と、勉強や活動をしている学生が同じスペースで過ごせる空間ができると、世代間交流や出会いの場、アイデアが生まれる場になるのではないかな。

○夜遅くまで利用できる飲食店や図書館、フリースペース

- ・家族向けの飲食店や、地域の住民、観光客などが共に利用できるような暮らしに密着した飲食店があると良いのではないかな。
- ・真駒内駅は学生の利用も多いが、夜遅くまで滞在できる場所がほとんどないため、勉強や休憩に利用できるフリースペースがあると良い。

○真駒内駅自体を魅力的なものにする

- ・真駒内駅のデザインを魅力あるものとすることで、住民の関心や来街者の興味関心を惹きつける。
- ・真駒内駅の地下空間を整備するなどにより、冬でも雨風に強い街になると良い。
- ・駅の中に、気軽に立ち寄ることができるカフェなどの機能を配置し、駅を利用する学生や地域の住民が利用できるようにする。

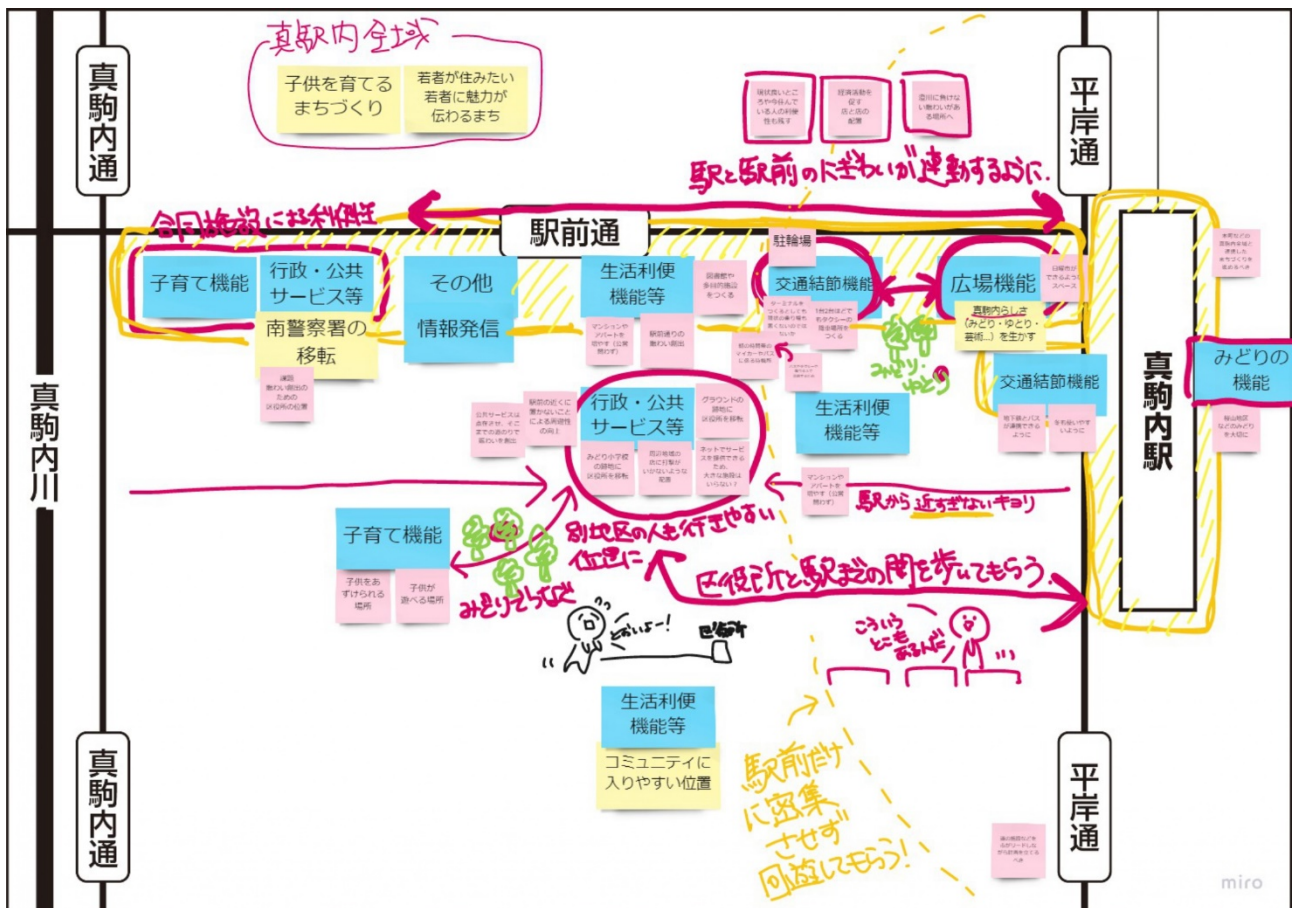
○真駒内に元々あるみどりや店を大切にする

- ・真駒内に元々あるみどりの景観を損なわないようにしていきたい。
- ・真駒内駅前の樹木などのみどりを、歩いて楽しめるような地域になると良い。
- ・気軽に立ち寄れる場所や買い物の場所も必要だが、既存の商店などの不利益も考える必要があり、まちの全体が活性化していく視点が必要である。

■グループ②の結果

プログラム：

時間	内容	
16:00	開会のあいさつ	
16:05	情報提供（札幌市）	・【報告】真駒内中学校及び真駒内桜山小学校の一体整備について ・今回の地域協議会の位置づけについて ・第2回地域協議会・検討委員会の振り返り ・再編コンセプトの整理について
16:20	意見交換	・駅前地区がどのような使われ方をするかを想像し、効果を高める機能の関係性を考える
17:20	発表	
17:25	閉会のあいさつ	・事務連絡 ・ワークショップのアンケート記入、回収
17:30	閉会	



◆駅前求められる機能の位置関係について

○駅から真駒内通に向けて、駅前通に沿うように広場機能、交通結節機能、生活利便機能、情報発信機能等、子育て機能、行政・公共サービス等の機能の順で配置

- ・真駒内駅と駅前のにぎわいが連動し、歩いてまち全体を楽しめるように各機能を配置する。
- ・広場機能と交通結節機能が駅とつながることで、天候や季節に左右されない南区の交通結節点になり、地域の住民や来街者が訪れやすくなる。また、コミュニティの活性化にもつながる。

○行政・公共サービス等の機能を真駒内駅から離れた位置に配置

- ・住民票の発行など、区役所のサービスの一部はインターネットでも手続き可能であるため、区役所が駅から至近の場所である必要はない。
- ・区役所などの行政・公共サービス機能は、駅から近すぎず、かつ他地区からも通しやすい位置に配置することで、駅から歩いてもらうことになり、既存の商店街などのにぎわいが保たれ、現在の真駒内住民の利便性も維持される。

○子育て機能と行政・公共サービス等の機能は、真駒内駅から離れた位置で隣接させる

- ・子育て機能と行政・公共サービス等の機能が複合された施設を、駅から離れた位置に配置することで、子育てに関する手続きが簡単になるなど利便性の向上や、周遊性を促進により、にぎわいを創出する。
- ・子育て機能と行政・公共サービス機能を隣接させ、緑道でつなぐことで利便性を高めつつ、利用者に真駒内のみどりを感じてもらう。

○生活利便機能と情報発信機能を、子育て機能と行政・公共サービス等の機能に隣接させる

- ・図書館や多目的ホールなどの生活利便機能や情報発信機能は、子育て機能、行政・公共サービス等の機能と隣接させ、住む人にとっての利便性を高め、にぎわいを創出する。

◆駅前求められる新たな機能や考えるべき事項について

○真駒内らしいみどりや現状の良いところを活かし、守る

- ・駅前だけににぎわいが偏ることにより、真駒内らしい「みどり」や「ゆとり」がなくならないようにするべき。
- ・桜山の地区には自然豊かで広大な土地がある。駅の裏と表を考えたまちづくりをすることで、子供たちに残していける街になるのではないかな。
- ・真駒内は桜山や真駒内川など、小さいエリアの中に豊かな自然が残っているところが魅力であり、エネルギーの拠点があることも特徴である。そのような魅力を活かしたまちづくりが、真駒内の魅力を高めていくのではないかな。
- ・駅前通にある、既存のにぎわいや利便性が失われることのないような開発をしてほしい。

○排熱エネルギーの活用について

- ・再整備をしている駒岡清掃工場の排熱エネルギーの活用を検討しているのであれば、数十年先の未来を見据えた、駅前地区への熱エネルギーの供給を考えると良い。

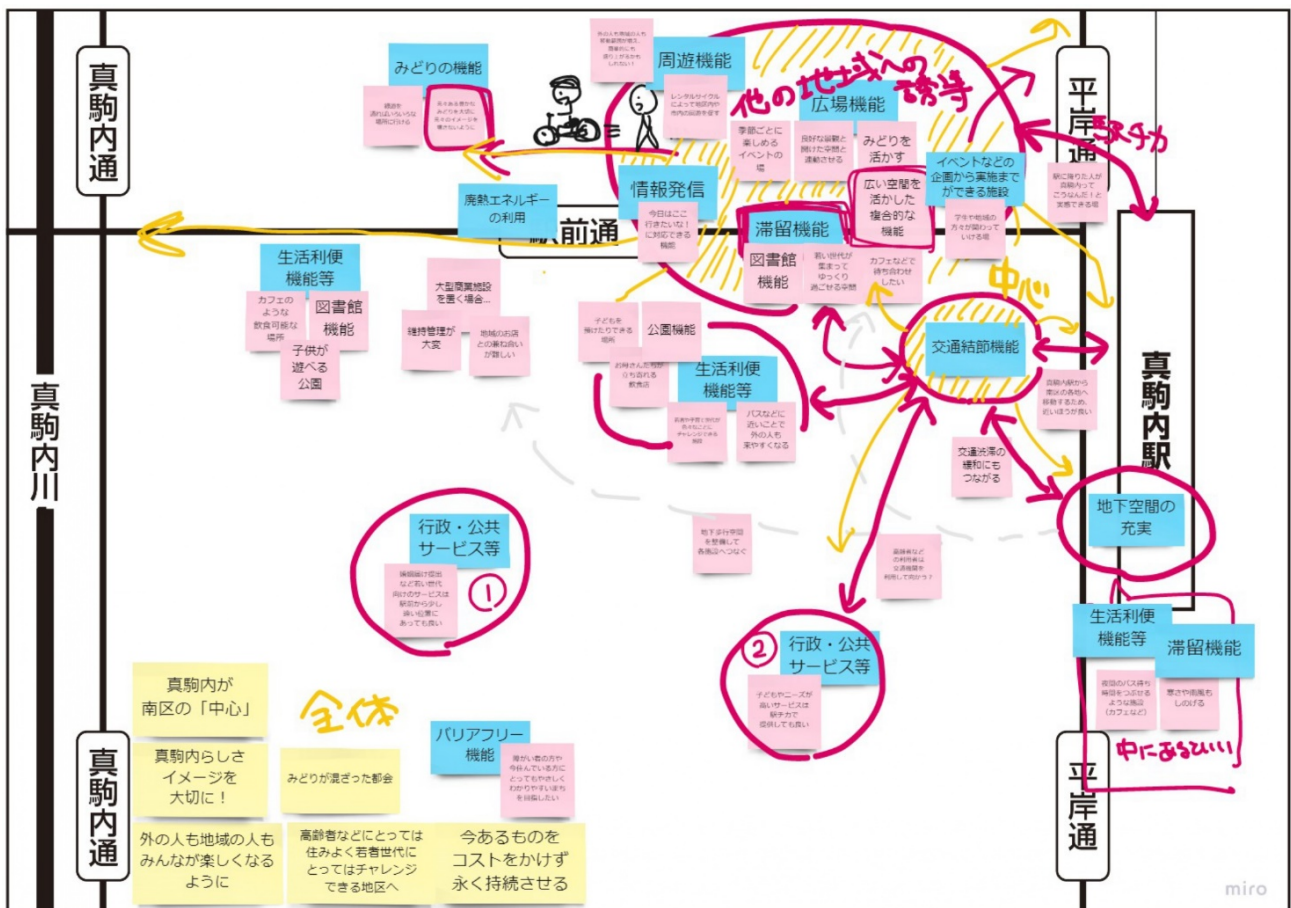
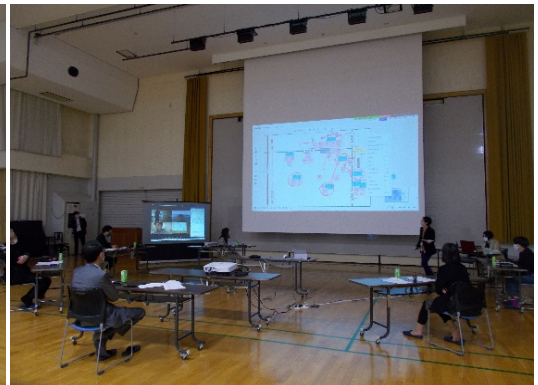
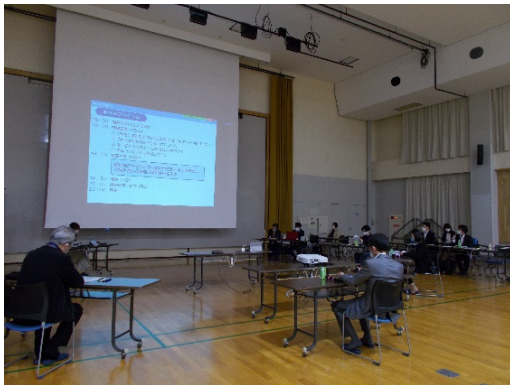
○目指すべき真駒内の姿

- ・真駒内は老人の街ではなく、子供を育てる街になるべきである。地域として子育てをどのように行っていくかに目を向けるべきである。
- ・若者に住みたいと思われるように、若者に魅力が伝わる街になるべきである。

■グループ③の結果

プログラム：

時間	内容	
18：30	開会のあいさつ	
18：35	情報提供（札幌市）	・【報告】真駒内中学校及び真駒内桜山小学校の一体整備について ・今回の地域協議会の位置づけについて ・第2回地域協議会・検討委員会の振り返り ・再編コンセプトの整理について
18：50	意見交換	・駅前地区がどのような使われ方をするかを想像し、効果を高める機能の関係性を考える
19：50	発表	
19：55	閉会のあいさつ	・事務連絡 ・ワークショップのアンケート記入、回収
20：00	閉会	



◆駅前求められる機能の位置関係について

○真駒内駅前に、滞留機能、周遊機能、イベントなどができる施設、情報発信機能等を有した広場機能を配置する

- ・区内、区外の学生が、イベント企画の話し合いをしたり、実際にイベントを行ったりできる広場を駅前に配置することにより、様々な地域から学生が訪れやすく、活動しやすい場所になる。
- ・観光、通勤、用事など様々な理由で訪れる人が、駅から出た瞬間に「何かをやっている」ことがわかるような、にぎわいが感じられる配置にすべき。
- ・カフェの運営など、やってみたいことにチャレンジできる多機能施設を広場内に配置することで、にぎわいの創出につなげる。
- ・ショップ、カフェ、フリースペース、図書館といった滞留機能を広場に隣接させることで、現状の真駒内にはない休憩やバス待ちの場所、雨天時でも利用できる場所としての利便性を高め、多世代によるにぎわいを創出する。

○駅前の交通結節機能を中心とした配置にする

- ・真駒内以外の利用者の利便性を踏まえ、交通結節機能を駅と近接させるとともに、広場機能、生活利便機能、行政・公共サービス等の機能の中心に配置することで、来街者が訪れやすくなり、地域の住民も各機能へ移動しやすくなるなど利便性が高まる。
- ・子育て世代が、子どもを預けたり、遊ばせたりできる施設や、保護者が子どもを預けた状態で利用しやすい飲食店など、子育て機能・生活利便機能が隣接することで、地区内・外の子育て世代が訪れやすい街になる。

○真駒内地域全体の周遊につながるような配置にする

- ・各種機能を点在させ、歩いているうちに上町商店街についてしまった、公園についてしまった、というような周遊性をつくる。
- ・魅力ある真駒内の地域資源が、駅から歩くには遠い場所にもあるため、広場機能の中に周遊機能としてレンタルサイクルを設置することで、真駒内全域を自転車で巡ることを誘導する。

○行政・公共サービス等の機能を、真駒内駅前から離し、分散させた配置にする

- ・住民票の発行など、インターネットでも手続き可能な区役所のサービスは、駅前から離れた位置に配置し、子育て世代や高齢者向けのサービスは駅前に近い位置に配置するなど、機能を分けて点在させることで、周遊性及び利便性を高める。
- ・高齢者がバスなどの公共交通機関を利用することが多いのであれば、それらから区役所などへのアクセス性を確保すると良い。したがって、行政・公共サービス等の機能は駅前の近くでなくても良い。

◆駅前求められる新たな機能や考えるべき事項について

○真駒内らしいみどりや現状の良いところを活かし、守る

- ・真駒内は、桜山や駅前の樹木に加え、サイクリングロードにつながる公園など、みどりが豊かである。これらの真駒内らしさを残し、守りながら活用してほしい。

○高齢者や障がい者など誰にとっても住みやすく、若い世代がチャレンジできる街を目指す

- ・街のサインや道路のバリアフリーにも配慮した整備を行い、住みやすい街を目指してほしい。
- ・Co ミドリのような、若者がやってみたいことにチャレンジしやすい場所があると良い。

○南区の中心としての広場機能の活用について

- ・南区は芸術の森や藻南公園、定山溪など魅力的な場所が多く、その交通結節点である真駒内駅に人を集めることを考えたときに、南区の中心としてどのように広場機能を活用していくかも考えるべきである。

○駅前空間の活用について

- ・人通りを地下にするなどして、平岸通との交差を避けることで、駅前の広場も有効に活用できるのではないか。
- ・駅前通は、駒岡清掃工場の排熱を利用してロードヒーティングとし、広場も一体的に活用していくと素晴らしい駅前になるのではないかな。